

令和元年度 上峰町総合教育会議 会議要旨

1 会議名

令和元年度 上峰町総合教育会議

2 開催日時

令和元年10月2日(水) 13:30 開会 14:30 閉会

3 開催場所

上峰町役場 202 会議室

4 出席者

武廣町長、野口教育長、平川(未)委員、時津委員、田中委員
馬場委員、平川(利)委員、江頭委員、衛藤委員、片渕委員

5 出席説明者

牟田校長(上峰小)、西村校長(上峰中)、吉田教育委員会事務局長
松永学校教育係長、筒井教育指導係長

6 傍聴者

なし

7 協議事項

(1) 上峰町の不登校の現状と課題について

① 現状

- ・ 8月末時点で30日以上欠席(不登校)している児童生徒が、小学校で2名、中学校で2名。
- ・ 家庭生活が乱れたり、人間関係づくりに不安を抱えたりと要因は様々。不登校児童生徒の中には、発達障害がある者もいる。
- ・ 県全体の不登校出現率は、小学校で約0.59%、中学校で3.74%である。県の出現率と比較すると上峰小・中学校とも出現率は低い。

② 対応

- ・ SCやSSWを含めたチームの体制を整え、支援を行っている。
- ・ 外部機関(幼稚園保育園、SSF、町健康福祉課、児童相談、療育施設)とも積極的に連携を行っている。

③ 課題

- ・ 学校に登校できても、別室対応を可能にする教室・場所や人的な課題（支援員には学習指導はさせられない）があり、学習支援を臨機応変にすることが難しい。
- ・ 不登校になってから発達障害に気づく場合が多く、入学前の適正就学の重要性を感じる。
- ・ 乳幼児期からのゲームやスマホといったものに依存させる環境にある家庭が多く存在。妊娠した時からの親育ての重要性を感じる。

(2) 今後の対策について

- ・ 外部機関(SSF)の訪問支援をもっと増やせないか。
→ SSFの人的環境、抱えている膨大な案件を考えるとあまり期待はできない。
- ・ 入学前の適正就学についてどのように考えたらいいか。
→ 子どもの困り感をできるだけ早期に把握、理解し、支援することが大切。
鳥栖市には児童発達支援センターがあり、ここを拠点として就学前の子どもの理解、発達障害などの把握を行っている。
- ・ 上峰にも子どもの発達に関する拠点などがあつた方がよいのか。
→ 親の関わり方なども含めて専門的な助言がいただければ非常に助かる。
長期的にはそのような拠点があればありがたいが、喫緊の課題として、教室に入れられない子の居場所が学校から少し離れたところがあればいいと感じている。例えば適応指導教室があれば大変ありがたい。
- ・ 適応指導教室とはどういう場所なのか。
→ 神崎市でいうと公民館の2階に専用の部屋があり、そこで学習を教えている。スタッフは退職教員。
- ・ 適応指導教室については、来年度の予算で予算組みをしていく。神崎市を参考に対策として進めていく。

8 連絡事項

- ・ 放課後子ども教室(英会話・プログラミング教育)見学について